

| | | | |
|---|--|------|-------------------------------|
| 分野 専門分野 | | | |
| 科目名 母性看護学実習 | 単位 | 2単位 | 開講時期 |
| | 時間 | 60時間 | 2年次～3年次 |
| 講師名 | 臨床指導者・臨床指導教員 | | 実務経験 看護師・助産師 / 教員（助産師） |
| 授業概要 周産期各期・女性のライフサイクル期における看護を必要とする人々を理解し、対象に看護が提供できるための基礎的能力を養う。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦および新生児の特徴・看護の実際を述べることができる。 2. 思春期・成熟期・更年期・老年期の対象の健康問題と必要な看護支援を述べることができる。 3. 母子とその家族を支える地域母子保健福祉を理解し、役割を考える。 4. 母子保健医療チームの一員である責任と役割を自覚し行動できる。 | | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | |
| ◎ | 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | | |
| 授業内容 | | | |
| 実習要綱【母性看護学臨地実習】参照 | | | |
| 病棟実習 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 産婦の特徴・看護の実際を述べることができる。 2) 褥婦の特徴・健康生活の維持・母子関係成立への援助の実際を述べることができる。 3) 新生児の生理的特徴・胎外生活への援助看護の実際を述べることができる。 4) 切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。 | | | |
| 外来・地域実習 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦の生理的特徴・看護の実際を述べることができる。 2) ライフサイクル各期の女性の健康増進、援助方法について述べることができる。 3) 周産期医療、母子保健施策、制度、社会資源の活用等を結び付け、地域で切れ目なく母子とその家族を支援する方法、内容について述べることができる。 | | | |
| 受講上の注意 | | | |
| 母性看護学方法論Ⅱの演習等振り返りをしっかり行う | | | |
| 評価方法 | | | |
| 指導者と情報交換を行い、評価表に沿って総合的に教員が評価する。 評価内訳：病棟実習（55点）、外来・地域実習（45点） | | | |

| | | | |
|---|--|------|------------------------|
| 分野 専門分野 | | | |
| 科目名 精神看護学実習 | 単位 | 2単位 | 開講時期 2年次～3年次 |
| | 時間 | 90時間 | |
| 講師名 臨床指導者・臨床指導教員 | 実務経験 看護師/教員（看護師） | | |
| 授業概要 心・精神のあり様が、その人の生活全般に大きく影響を及ぼすことを理解し、精神に障害を持つ人の問題を構造的に捉え、援助・支援のあり方について考察できると共に、援助過程を通して自己理解を深めるようにする | | | |
| 到達目標 1 精神に障害を持つ人の治療的環境と看護の役割が理解できる 2 精神の障害が患者の日常生活にどのように影響を及ぼしているかを掴み、その問題の解決の為に必要な援助が考えられる 3 精神を障害された人との相互作用の中から、治療的人間関係を構築する必要性が理解できると共に、自己洞察ができる 4 健康段階に応じた生活の場において、障害を持ちながらも生活の場に適応して生活ができるためにどのような援助・支援が必要か考察できる | | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | |
| ◎ | 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | | |
| 授業内容 | | | |
| 実習要綱【精神看護学臨地実習】参照 行動目標 1.医療施設全体が治療環境としてどのような場であるか説明できる 2.患者の問題解決に向けて、多職種が連携する中で看護が果たす役割が理解できる 3.患者の健康問題や症状、背景などから患者が抱える問題を理解し、解決の為に必要な援助が考えられる 4.患者の行動の意味について考え、場面に適した応答ができる 5.患者の人権を尊重する必要性が理解できる 6.患者との相互作用の過程を通して治療的人間関係構築の必要性が理解できると共に、自己の感情に気づき、自己理解が深められる 7.地域で療養する患者の、日常生活上の問題を解決する為の支援のあり方を考察できる 8.健康段階を一連のものとして捉え、発症から地域療養までのそれぞれに応じた援助・支援のあり方について考察できる | | | |
| 受講上の注意 ・実習に入る前にDVD「目で見える精神看護」Vol.1,2,3を視聴しておく | | | |
| 評価方法 実習評価基準に従って臨床指導者40点、担当教員50点と 訪問看護ステーション、地域活動支援センター実習は担当教員が10点満点で評価 合計100点 | | | |

分野 専門分野

| | | |
|--|--|------------------------|
| 科目名 成人看護学実習 | 単位 2単位 時間 90時間 | 開講時期 2年次～3年次 |
| 講師名 臨床指導者・臨床指導教員 | 実務経験 看護師/教員（看護師） | |
| 授業概要 生体侵襲の大きい治療周期期にある急激な変化をきたしている患者の状態をアセスメントし、健康危機状況にある患者の回復を促す看護を学ぶ。 到達目標 1)急性期・周期期の特徴をふまえた対象の理解ができる。 2)健康障害及び治療処置による反応を、系統的に観察し情報収集分析し、看護上の問題を明確にすることができる。 3)対象の症状や治療・処置に伴う苦痛の緩和ができる。 4)対象が回復していく過程に応じて、自立に向けた日常生活援助ができる 5)急性期における医療チームの連携を学び、看護者の役割を理解できる。 | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | |
| ◎ | 5. 看護への探求心を持ち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | |
| <p style="text-align: center;">授業内容</p> 実習要綱【成人看護学臨地実習】参照 目標 1) 急性期・周期期の特徴をふまえ、身体面、心理面の理解ができる。 2) 健康障害及び治療処置による反応を、系統的に観察し情報収集できる。 3) 健康障害及び治療処置に関連した情報を統合的に分析し、看護上の問題を明確にする。 4) 健康障害及び治療処置による影響、変化に対応した個別的な援助ができる。 5) 生体機能の回復を促し、回復の状態に応じた日常生活自立への援助ができる。 6) 急性期における医療チームの連携を学び、看護者の役割を理解できる。 | | |
| 受講上の注意 | | |
| 評価方法 成人看護学実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60% | | |

| | | | |
|---|--|------|------------------------|
| 分野 専門分野 | | | |
| 科目名 老年看護学実習 | 単位 | 2単位 | 開講時期 2年次～3年次 |
| | 時間 | 90時間 | |
| 講師名 臨床指導者・臨床指導教員 | 実務経験 看護師/教員（看護師） | | |
| 授業概要 高齢者を統合的に理解し、治療や看護を必要としている対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践できる能力を養う。また、これらの援助を通して高齢者のもてる力を活かした援助方法、家族へのケア、他職種との連絡について学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 高齢者を総合的に理解し、対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践ができる 2. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働を考慮できる。 3. 高齢者を取り巻く社会を理解し、老年観を深めることができる。 | | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | |
| ◎ | 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | | |
| 授業内容 | | | |
| 実習要綱【老年看護学臨地実習】参照 | | | |
| 実習目標 | | | |
| 1. 高齢者を総合的に理解し、対象の健康回復やその人、家族が望む生活の実現に向けて看護過程を用いて実践ができる | | | |
| 2. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働を考慮できる。 | | | |
| 3. 高齢者を取り巻く社会を理解し、老年観を深めることができる。 | | | |
| 行動目標 | | | |
| 1. 健康上の問題を総合的にとらえることができる | | | |
| 2. 対象の個性や残存機能を活かした看護実践ができる | | | |
| 3. 高齢者、その家族と良好な人間関係を構築することができる | | | |
| 4. 継続看護の必要性を理解し、保健医療福祉チームの一員としての自覚をもち、他職種との連携と協働することを理解する | | | |
| 5. 高齢者や家族とのかかわりを通して老年観を深めることができる。 | | | |
| 受講上の注意 3週間一人の受持ち患者さんに関わっていきます。実習を通して、対象を理解し、健康障害を持つ高齢者と家族の看護の実際を楽しく学びましょう。 | | | |
| 評価方法 ・老年看護学実習評価を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況 実習の取組み・出席状況により総合的に評価を行う 臨床指導者40%、臨床指導教員60% | | | |

| | | | |
|---|--|------|------------------------|
| 分野 専門分野 | | | |
| 科目名 小児看護学実習 | 単位 | 2単位 | 開講時期 2年次～3年次 |
| | 時間 | 90時間 | |
| 講師名 臨床指導者・臨床指導教員 | 実務経験 看護師/教員（看護師） | | |
| 授業概要 小児の成長発達過程の特性を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康レベルにある小児と家族に対して適切な看護を 実践できる基礎的能力を養う。 | | | |
| 到達目標 1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる。 2. 健康障害や入院が小児とその家族の及ぼす影響を理解できる。 3. 対象の小児とその家族の看護問題を明確にし、個別性に応じた計画が立案できる。 4. 子どもと家族の特徴を理解し、必要な援助を安全安楽に実施できる。 5. 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携・協働を理解することができる。 | | | |
| DPとの関連 関連が深いもの◎、関連するもの○ | | | |
| ◎ | 1. 看護の対象である人間を身体的、精神的、社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。 | | |
| ◎ | 2. 対象の健康状態やその変化に応じて、科学的根拠に基づいた看護の実践能力を養う。 | | |
| ◎ | 3. 人々の多様な価値観を認識し、やさしい心で接するとともに、専門職業人として倫理に基づいた行動能力を養う。 | | |
| ◎ | 4. 保健・医療・福祉システム及び多職種の役割や連携を理解し、多様な場で生活をする人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | |
| ◎ | 5. 看護への探求心をもち、専門職業人として自ら学び続ける姿勢を養う。 | | |
| 授業の流れ【全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・準備物品など】 | | | |
| 授業内容 | | | |
| 実習要綱【小児看護学臨地実習】参照 | | | |
| 実習目標 | | | |
| 1. 小児看護学実習Ⅰ（保育園） | | | |
| 1) 健康な乳幼児の成長発達の特徴を述べることができる。 | | | |
| 2) 小児の健やかな成長発達を促すための保育環境と発達段階に応じた日常生活への関わりについて述べるこ とができる。 | | | |
| 2.小児看護学実習Ⅱ（外来） | | | |
| 1) 小児科外来の特徴および看護師の役割について述べるこ とができる。 | | | |
| 2) 子どもの成長・発達に応じた看護と、協働、継続、連携の必要性について述べるこ とができる。 | | | |
| 3) 病児保育の実際と看護師の役割について述べるこ とができる。 | | | |
| 3.小児看護学実習Ⅲ（病棟） | | | |
| 1) 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる。 | | | |
| 2) 健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響を理解できる。 | | | |
| 3) 対象の小児とその家族の看護問題を明確にし、個別性に 応じた計画が立案できる。 | | | |
| 4) 子どもと家族の価値観を尊重し、安全・安楽に援助するこ とができる。 | | | |
| 5) 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携・協働を 理解することができる。 | | | |
| 受講上の注意 | | | |
| ・小児看護学方法論Ⅱで行う看護過程の展開の実際 の振り返りをしっかり行う。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| ・小児看護学実習Ⅰ～Ⅲそれぞれ終了後に、指導者と情報交換を行い、評価表に沿って総合的に各担当教員 が評価をする。 | | | |
| ・評価内訳：小児看護学実習Ⅰ（20点）、小児看護学実習Ⅱ（30点）、小児看護学実習Ⅲ（50点）で合計100点。 | | | |